

2022（令和 4）年度
教職課程 自己点検・評価報告書

帯広畜産大学

2023（令和 5）年 12 月 1 日

目 次

基準 1. 教育理念・学習目標

- 1－1. 教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況
- 1－2. 教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス
- 1－3. 教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直し

基準 2. 授業科目・教育課程の編成実施

- 2－1. 教育課程の体系性
- 2－2. 教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況
- 2－3. ICT の活用指導力等、各科目を横断する重要な事項についての体系性
- 2－4. いわゆるキャップ制の設定状況
- 2－5. 個々の授業科目の到達目標の設定状況
- 2－6. シラバスの作成状況
- 2－7. アクティブ・ラーニングや ICT の活用等、新たな手法の導入状況
- 2－8. 「教職実践演習（高）」及び「教育実習」等の実施状況
- 2－9. 教育課程の充実・見直しの状況

基準 3. 学修成果の把握・可視化

- 3－1. 成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況
- 3－2. 教員養成の目標の達成状況を明らかにするための情報の設定及び達成状況
- 3－3. 成績評価の状況

基準 4. 教員・職員組織

- 4－1. 教職員の配置の状況
- 4－2. 教員の業績等
- 4－3. FD・SD の実施状況
- 4－4. 授業評価アンケートの実施状況

基準 5. 情報の公表

- 5－1. 法令に定められた情報公表の状況
- 5－2. 学修成果に関する情報公表の状況
- 5－3. 教職課程の自己点検・評価に関する情報公表の状況

基準 6. 教職指導（学生の受入、学生支援）

- 6－1. 教職課程を履修する学生の確保に向けた取り組み状況
- 6－2. 学生に対する履修指導の実施状況
- 6－3. 学生に対する進路指導の実施状況

基準 7. 関係機関との連携

- 7－1. 教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況
- 7－2. 「教育実習」を実施する学校との連携・協力の状況
- 7－3. 学外の多様な人事の活用状況

○帯広畜産大学の自己判定基準

自己判定	判定基準
S	評価基準を十分に満たしており、使命・目的を達成する取り組みが特筆すべき水準にある。
A	評価基準を満たしており、使命・目的を達成する取り組みが適切である。
B	評価基準を概ね満たしているが、使命・目的の達成に向けて一部改善が必要である。
C	評価基準を満たしておらず、使命・目的の達成に向けて改善が必要である。

〈本報告書と文科省資料の表記の関係〉

「教職専門科目」：各教科の指導法、教育の基礎的理解に関する科目、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、教育実践に関する科目

「教科専門科目」：教科に関する専門的事項

「教職関係科目」：上記 2 科目および文科省令科目

基準 1. 教育理念・学習目標

基準項目と評価の視点	2022 年度 自己判定	自己判定の理由	エビデンス資料
1-1 教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況 教職課程教育の目的・目標を、全学で目指すべき人材像を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知しているか	S	・ 本学が開設する教職課程は、開放制に基づき、各専門のユニットの卒業要件を満たした上で教職課程での要件も満たした者だけが教育職員免許状の取得が可能である。本学の伝統、特色、ビジョンや本学の基本目標として定めている「目指すべき人材像」を踏まえて「本学の教員養成の目標」を策定し、本学 HP にて公表すると共に、新入生オリエンテーションにて、全入学生に周知している。 ・ 本学 HP にて、上記目標を達成するための計画として、学部 4 年間を通した教職課程の履修スケジュールを月ごとに表示するとともに、新入生オリエンテーションにて、全入学生に周知している。	【資料 1】 目指すべき人材像／帯広畜産大学 HP https://www.obihiro.ac.jp/navi-educational-policy#02 【資料 2】 教職課程／本学の教員養成の目標／帯広畜産大学 HP https://www.obihiro.ac.jp/teacher-training 【資料 3】 教職課程／上記目標を達成するための計画／帯広畜産大学 HP https://www.obihiro.ac.jp/teacher-training 【資料 4】 教職課程新入生オリエンテーション資料 ※冊子に収録（URL のないものは以下、同様。）
1-2 教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス 学生や各部門・ユニット教員や採用権者の意見の考慮、所在する都道府県教育委員会の策定する教員育成指標との関係性の考慮が行われているか	A	・ 「本学の教員養成の目標」は、HP に公表している「教職課程運営会議」にて検討・策定している。同会議メンバーは、多くが教育職員免許状を有する教職専門と教科専門の科目担当者から構成される。すなわち、同会議にて各ユニットでの特色や育成状況を把握した上で策定している。 ・ 最終年次の免許取得予定者に対し、「履修カルテ」の自己評価に加えて「教職課程アンケート」を実施し、「本学の教員養成の目標」への達成状況、教職専門科目の授業内容の効果、履修における困難さ等について、毎年、意見聴取をしている。 ・ 北海道教育委員会が策定する教員養成指標を踏まえるとともに、学校支援ボランティアや「草の根教育実習」等の実施において、北海道教育委員会との連携を図り、意見聴取を行っている。 ・ 今後は、「教職課程運営会議」の全学的位置づけを明確・明文化した「教職課程運営委員会」を組織する。すなわち、運営・点検評価の中核的組織として学内規程にも明確に位置づけることで、自己点検・評価を含め当該委員会で決定するプロセスをより一層、明確化する。	【資料 5】 教職課程／大学全体における教職指導体制・教員構成／帯広畜産大学 HP https://www.obihiro.ac.jp/teacher-training 【資料 6】 帯広畜産大学「履修カルテ」 http://board.obihiro.ac.jp/bukyoku/gakusei_ka/download.html 【資料 7】 北海道における教員育成指標 https://www.dokyo.pref.hokkaido.lg.jp/fs/8/2/6/1/7/9/3/_/R5ikuseishihyou.pdf 【資料 8】 「教職課程アンケート」（免許取得予定者）

1-3 教員養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直し 全学的に教職課程を実施する組織が教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検・評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているか、させようとしているか	A	・全学的に教職課程を実施する組織である「教職課程運営会議」は、副学長を長とする大学教育センター教育支援室内に位置付く。同会議は、HP 上で公開しているように、2 名の教職課程専任教員のほか、IR 及び教職専門科目担当教員、共同獣医学課程及び畜産科学課程の各ユニットにて教科専門科目を担当する複数名の教員、教務課のスタッフが組織的に連携する体制となっており、自己点検・評価をはじめとした教職課程の不断の改善を行っている。 ・再課程認定業務が伴う学部改組時等には同会議座長が「運営戦略会議」及び「教育研究評議会」等の全学会議に参加し、文科省での事前相談に本学責任者として直接訪問するなど、全学の改革を、教職課程との関係を密にとって進めている。 ・2023 年度から、「教職課程運営会議」の全学的位置付けを明確・明文化した「教職課程運営委員会」をスタートする予定。当該委員会細則には、自己点検・評価を審議事項に位置付ける予定である。	【資料 5】教職課程／大学全体における教職指導体制・教員構成／帯広畜産大学 HP ※再掲のため、URL を省略（以下、同様。） 【資料 9】帯広畜産大学大学教育センター教育支援室内規 【資料 10】大学教育センター組織図
---	----------	---	---

【関連する本学の学則・規程等】

- ・帯広畜産大学学則
- ・帯広畜産大学大学院学則
- ・帯広畜産大学組織規則
- ・北海道国立大学機構帯広畜産大学事務組織規程
- ・帯広畜産大学大学教育センター規程

基準 2. 授業科目・教職課程の編成実施

基準項目と評価の視点	2022 年度 自己判定	自己判定の理由	エビデンス資料
2-1 教育課程の体系性 法令及び教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画と対応して必要な授業科目が開設され適切な役割分担が図られているか、教職課程以外の科目との関連性が適切に確保されているか	A	・教育職員免許法に基づき、法令上の各科目区分に必要な科目を開講しており、教職課程専任教員の専門性や実務家教員の登用によって適切な役割分担を図っている。 ・「履修カルテ」内の各授業の振り返り項目において、すべての教職関係科目の授業担当者が当該科目で身につけるべき到達目標を設定している。また、教職課程履修者名簿を授業担当者及びゼミ教員に配布することで、学生の存在を意識した科目構成や教職課程との関連性を担保している。 ・新入生オリエンテーションにて、各ユニットと教員免許との専門性のつながりと取得可能なし取得を推奨する免許教科を説明している。加えて、教職専任教員が担当する「教育原理」と「教育心理学」をいわゆる一般教養科目として全学に開放するとともに、「各ユニットでの教員免許状取得の指標」において必修科目・指導科目と教職関係科目との関係を示す等、教職課程以外の科目との関連性を確保することに努めている。	【資料 11】帯広畜産大学『令和 4 年度 履修要覧』「教育職員免許状」pp.73-79 【資料 12】帯広畜産大学 Web シラバス https://gkm02.obihiro.ac.jp/portal/Public/Syllabus/SearchMain.aspx/ 【資料 6】帯広畜産大学「履修カルテ」 【資料 13】各ユニットでの教員免許状取得の指標
2-2 教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況 ICT（情報通信技術）環境（オンライン授業含む）、模擬授業用の教室、関連する図書など、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか	A	・教職課程の授業で使用する講義室には、全室に無線 LAN とプロジェクター、一部に遠隔授業対応型電子黒板が設置されており、Web カメラ等のオンライン授業用機器も使用可能であり、ICT を活用した模擬授業も実施できる設備環境が整っている。 ・アクティブ・ラーニングを実践する場として、各教員の研究室の隣接スペースやマルチルームを設置している。 ・附属図書館には、教育学や教育心理学関連図書・雑誌のほか、国内外の教育現場や教育統計に関する図書・雑誌、教職課程に関わる授業科目の関連図書として、シラバス掲載の指定・参考図書、高校教科書、学習指導要領、教員採用試験関連図書等を、コーナー別に配架している。また、ラーニング・コモンズも設置している。	【資料 14】帯広畜産大学附属図書館 HP https://www.obihiro.ac.jp/navi-library/

2-3 ICT の活用指導等、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性 今日の学校における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われているか	A	・教職課程履修者は、一般教養科目として各専門分野において必要不可欠な汎用的・専門的な ICT 技術を身につけている。その上で、教職課程においては、そうした素養の積み上げを基盤にして、ICT 技術を積極的に教育現場で活用する意識付けをするとともに、ICT 技術活用の意義やその活用の方法論に関する理解についても深めている。具体的には、教職専門科目全般でのポータルサイトを活用したリアクションペーパーの実施、「教育方法」や「各教科教育法」や「教職実践演習（高）」の授業でのプレゼンテーション・動画ソフトの活用を位置付けている。そこでは、文科省「教員の ICT 活用指導力の向上」を推進する方針に基づき、ICT 機器を用いた指導力の養成に努めている。 ・今後、本学にて「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」を立ち上げ、教職課程と関連付けることを検討している。	【資料 15】各年度「教育方法」報告書 【資料 12】帯広畜産大学 Web シラバス
2-4 いわゆるキャップ制の設定状況 1 単位あたりの学修時間を確保する上で有効に機能しているか	A	・帯広畜産大学学則第 18 条及び『履修要覧』にて、授業単位は授業及び予習・復習などの時間外学修を考慮した単位の計算方法となっていること、及びいわゆるキャップ制として 46 単位を年間履修登録単位数の上限として設定していること、成績優秀者には特例としてその上限を緩和する規定を定めていることを明記している。 ・教職課程を含めた全授業科目のシラバスに予習・復習内容を明示し、「学生による授業評価アンケート」でも予習・復習に要した時間を回答項目に設定することで、法令上の授業外学修時間を満たすよう努めている。 ・教職課程の履修については、既述の一般教養科目として開放している一部の科目を除き、キャップ制の対象としていないが、『履修要覧』及び新入生オリエンテーションにて、原則としての履修年次と履修順序をいわゆるカリキュラムツリーとして示している。すなわち、計画的な履修を促すことで過度な履修に陥らないよう、配慮している。	【資料 16】帯広畜産大学『令和 4 年度 履修要覧』「単位の計算方法」「履修登録単位数の上限」「成績優秀者に対する履修の特例」pp.43-49 【資料 12】帯広畜産大学 Web シラバス 【資料 17】学生による授業アンケート／大学教育センター／帯広畜産大学 HP https://www.obihiro.ac.jp/navi-edu-affairs 【資料 4】教職課程新入生オリエンテーション資料

2-5 個々の授業科目の到達目標の設定状況 法令、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画、学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムへの対応が図られているか	A	・本学ではシラバスに、教職課程も含む全授業科目で到達目標を設定して表記するとともに、学修到達ルーブリックの項目を設定して公開している。とりわけ、ほとんどの教職専門科目と教科専門科目のうちの実験・実習科目の一部は、学修到達ルーブリックを積極的に掲載している。これらはディプロマ・ポリシーと連動するものであり、ルーブリックに基づく成績評価により卒業時の質保証を実現している。 ・教職専門科目においては、教職課程コアカリキュラムに基づいたシラバス及び到達目標となっており、教育職員免許状取得のための要件を構成している。また、学習指導要領を参考書に挙げ、憲法・教育基本法・学校教育法をはじめとする法令の枠組みを明示した上で授業を行っている。	【資料 12】帯広畜産大学 Web シラバス 【資料 18】学修到達ルーブリック／帯広畜産大学 HP https://www.obihiro.ac.jp/rubric-ug 【資料 19】ディプロマ・ポリシー／帯広畜産大学 HP https://www.obihiro.ac.jp/3policy-ug#dp
2-6 シラバスの作成状況 教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法を学生に明確に示しているか	S	・本学では、上記のほか、教職課程も含む全授業科目でシラバスに、授業概要、授業計画、成績評価の基準と方法等の項目を設定し、記載を義務づけている。 ・教職専門科目では、各授業の初回にシラバスを踏まえたオリエンテーションを行い、本学教員養成の目標達成のための教職課程科目の体系性とそのなかでの各科目の位置付けについて説明している。	【資料 18】学修到達ルーブリック／帯広畜産大学 HP 【資料 12】帯広畜産大学 Web シラバス
2-7 アクティブ・ラーニングや ICT 活用等、新たな手法の導入状況 授業科目の到達目標に応じ、少人数のアクティブ・ラーニングや ICT を活用した新たな手法を導入し、「考える」「話す」「行動する」などの多様な学びをもたらす工夫が行われているか	A	・教員の ICT 活用の状況については、上述の基準 2-3 の通り。教職専門科目では、特に「教育方法」の授業において、数人のグループ編成で、教育現場のリアルな生徒指導の課題や学習指導案・教材づくりに取り組ませ、発表ならびに報告書を作成する過程で、ICT を活用するとともに、他者の価値観・思考・学びを受け入れて止揚していく多様な学びをもたらす工夫を行っている。	【資料 15】各年度「教育方法」報告書

2-8 「教職実践演習（高）」及び「教育実習」等の実施状況 ・教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っているか ・個々の学生の学修状況に応じた実践的指導力を育成する機会を設定しているか	S	・「教育実習」の履修要件は、『履修要覧』に明示している。教育実習は、教育実習校での教育実習と本学における「事前・事後指導」で構成され、事前指導では教育実習の意義と心得、教育実習の内容、教科指導や生徒指導に関わる基本的事項などの教育実習を行うために必要となる内容を、それまでの教職専門科目で学んだ内容と関連付けて確認している。教育実習後には、事後指導にて、教育実習の反省と教師になる上での今後の課題整理を全体指導と個別指導を併せて行っている。 ・「教職実践演習（高）」は、教職課程の総まとめとして、最終年次後期に開講している。そこでは、各受講者の教育実習を含めた教職科目の学習状況をふまえて、教師になる上での個々人での課題を見いだし、その課題に関するテーマを設定し、文献調査やフィールドワークによる「教職ミニ卒論」に取り組み、報告会を行うことで、分析・総合能力と実践的指導力を育成する機会を設定している。	【資料 11】帯広畜産大学『令和 4 年度 履修要覧』『教育職員免許状』 【資料 20】各年度「教育実習履修要項」 【資料 21】各年度「教職実践演習（高）教職ミニ卒論要旨集」
2-9 教育課程の充実・見直しの状況 学修成果や自己点検・評価の結果等を踏まえて充実が図られ、適切な見直しが行われているか	S	・教職課程を含む全授業科目で、「学生による授業評価アンケート」を毎年実施し、その結果や成績評価の状況等を通じて個々の授業単位で見直し・充実を図っている。 ・「履修カルテ」の自己評価や教育職員免許状取得予定者への「教職課程アンケート」を実施し、「本学の教員養成の目標」への達成状況、教職専門科目の授業内容の効果、履修における困難さ等について、毎年、意見聴取をし、そこでの意見を教職課程運営会議に挙げて、教職関係科目の科目構成と授業内容の見直し・充実を図っている。	【資料 17】学生による授業アンケート／大学教育センター／帯広畜産大学 HP 【資料 6】帯広畜産大学「履修カルテ」 【資料 8】「教職課程アンケート」（免許取得予定者）

基準 3. 学修成果の把握・可視化

基準項目と評価の視点	2022 年度 自己判定	自己判定の理由	エビデンス資料
3-1 成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況 成績評価基準に基づく評語と授業科目ごとに定められている到達目標の達成水準との関係等が明らかにされているか	S	・教職課程を含む全授業科目において、GPA 制度との関連にて A+ から F までの GP の 11 段階評価と評点との関係を『履修要覧』に示している。とりわけ、教職課程においては、教職専門科目を中心に、到達目標の到達水準と評点との関係を、修学到達ループリックを積極的に用いてシラバスに公表・明示している。	【資料 22】帯広畜産大学『令和 4 年度 履修要覧』「GPA 制度」pp.16-17 【資料 18】学修到達ループリック／帯広畜産大学 HP 【資料 12】帯広畜産大学 Web シラバス
3-2 教員養成の目標の達成状況（学修成果）を明らかにするための情報の設定及び達成状況 「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細やかな教職指導を行い、「教職実践演習（高）」の指導にその蓄積を活かしているか	S	・本学での「履修カルテ」は、毎年、学生が学修状況を記入・提出しており、教職課程専任教員が年次進行に伴って随時、それを確認・点検しながら、教職指導を行っている。 ・「教職実践演習（高）」の際に、既述の授業内容に加えて、教職課程の振り返りを、「教職課程アンケート」を実施することで把握し、「履修カルテ」の蓄積も活かしつつ、教職指導を行っている。	【資料 6】帯広畜産大学「履修カルテ」 【資料 8】「教職課程アンケート」（免許取得予定者）
3-3 成績評価の状況 各授業科目の到達目標に照らしてできるだけ定量的または定性的に達成水準を明らかにし、厳格に点数・評語に反映することができているか、公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか	A	・本学の成績入力システムでは、11 段階評価の分布を定量的に確認することができ、その分布にもとづき、各年度の評価のばらつきを確認することを通して、厳格な成績評価と評価基準の随時見直しを心がけている。 ・教職課程を含む全授業科目において、上記 3-1 の内容に加えて、成績申立て制度を定めて実施している。 ・実務家教員を含めて、教職専門科目担当教員同士での受講者の学修状況の情報共有と成績評価の達成基準の協議を適宜、行っている。 ・「教育原理」や「学校教育論」、「教育方法」などの教職専門科目において、テストやレポートの配点及び採点基準を、達成水準との関係で実施前に、定量的・定性的に学生に提示している。	【資料 23】学生からの成績評価に対する申立て制度実施要項

基準 4. 教員・職員組織

基準項目と評価の視点	2022 年度 自己判定	自己判定の理由	エビデンス資料
4-1 教職員の配置の状況 教職課程基準をふまえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築しているか	A	・本学では教職課程認定基準をふまえて、教職専門科目及び教科専門科目に必要な教員数を配置している。 ・教職専門科目では、高等学校での豊富な実務経験に基づき特筆すべき教育研究業績を有する実務家教員と、当該専門分野の業績と教育現場の実情を十分に把握した研究者教員（2 名とも博士号所有）をバランス良く配置している。加えて、教職課程運営においては、そうした教職専門科目担当教員同士での受講者の学修状況の情報共有をはじめ、日々、改善の視点をもって協議している。 ・事務職員との協働体制については、「教職課程運営会議」に教務課のスタッフが、課長を含め常に複数名参画し、教職課程に関わるすべての業務を教職課程専任教員との意思疎通のもとで行っている。これにより、教育職員免許法施行規則の一部改正や教育実習時の突発的事態等に迅速かつ適切に対応できている。	【資料 5】 教職課程／大学全体における教職指導体制・教員構成／帯広畜産大学 HP
4-2 教員の業績等 担当授業科目に関する研究実績の状況、担当教員の学校現場等での実務経験の状況等	A	・本学では、すべての教員が年俸制のもとで、毎年、研究実績を含む多元的業績評価が実施されている。また、教職課程を含む全授業科目の教員の実務経験の有無について申請・把握している。 ・「教育方法」や「各教科教育法」等の学校現場での実務経験による知見が特に有益と考えられる教職専門科目には、実務経験を有する教員を配置している。 ・教職課程の再課程認定時や新任採用時等に、教職コアカリキュラムに関連する業績の確認を行っている。	【資料 24】 年俸制適用教員に対する業績評価要領

4-3 FD・SDの実施状況 いわゆる教科専門の授業科目を担当する教員や実務家教員も含め、教員の養成の目標及び到達目標を達成するための計画への理解をはじめ教職課程を担う教員として望ましい資質・能力を身に付けさせるためのFD・SDが確実に実施されているか	A	・教職課程専任教員が2名とも、全学のFD・SDを担当する教育支援室の室員として、教職課程履修学生の学修状況をふまえた上で、FD・SDの企画及び研修講師を担当している。	【資料25】大学教育センターFD研修 https://www.obihiro.ac.jp/edu-affairs-fd
4-4 授業評価アンケートの実施状況 個々の授業科目の見直しにつながるFDの機会を活用できるように、効果的な授業評価アンケートの作成・実施が行えているか	A	・本学では、教職課程を含む全授業科目で、毎学期に、「学生による授業評価アンケート」を実施している。 ・本学では、多元的業績評価の一環として、教職課程を含む全授業科目で「学生による授業評価アンケート」に対するコメントと授業改善の具体的手立てについて検討・明示する制度を運用している。 ・FD研修の機会に、「学生による授業評価アンケート」の評価の高い授業担当者として、教職課程専任教員が2名ともに授業改善の方法について講演するなど、授業評価アンケートをFDの機会に活用している。 ・教職専門科目では、「学生による授業評価アンケート」とは別に、既述の「教職課程アンケート」を実施し、教職課程の質的向上に役立てるとともに、全学のFDへの企画及び研修内容にも役立てている。	【資料17】学生による授業アンケート／大学教育センター／帯広畜産大学HP 【資料24】年俸制適用教員に対する業績評価要領 【資料8】「教職課程アンケート」（免許取得予定者） 【資料25】大学教育センターFD研修

基準 5. 情報の公表

基準項目と評価の視点	2022 年度 自己判定	自己判定の理由	エビデンス資料
5-1 法令に定められた情報公表の状況 教職課程に関する情報公表をわかりやすく適切に行えているか	A	・教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 に挙がる公表すべき情報について、「教職課程運営会議」での検討をふまえて、本学教職課程 HP に掲載し公表するとともに、毎年度、更新を行っている。	【資料 26】 教職課程／帯広畜産大学 HP https://www.obihiro.ac.jp/teacher-training
5-2 学修成果に関する情報公表の状況 大学が必要な資質・能力を備えた学生を育成できているかどうかを、エビデンスとともに説明できているか	A	・本学では、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー：DP、カリキュラム・ポリシー：CP、アセスメント・ポリシー：AP）及び、CPとDPの対応表、各ユニットと教職課程のカリキュラムフローチャート、各授業科目とDPの対応表等を作成・公表することで、エビデンスとともに学修成果に関する情報の公表を行っている。 ・教職課程での学修成果については、既述の「教職実践演習（高）」での授業ならびに、教育実習の振り返り、教育実習先の評価、教育職員免許状取得者数と教員採用状況等を通じて把握している。 ・学生自身が学修成果を的確に把握できるよう、「履修カルテ」の作成及び最終年次の教職課程全体の振り返りアンケートの記入等を通して、自己の振り返りや今後の課題を把握するように指導している。なお、既述 5-1 に関わり、教育職員免許状取得状況と教員への就職状況は本学教職課程 HP に掲載し公表している。 ・今年度から、各 DP 項目の達成度と教職課程履修等を含む「ディプロマ・サプリメント」の発行を予定している。	【資料 27】 授業科目と DP の対応表・CP と DP の対応表・教職のカリキュラムフローチャート／3 つのポリシーと AP／帯広畜産大学 HP https://www.obihiro.ac.jp/3policy-ug#cp 【資料 8】 「教職課程アンケート」（免許取得予定者） 【資料 26】 教職課程／帯広畜産大学 HP
5-3 教職課程の自己点検・評価に関する情報公表の状況 根拠となる資料やデータ等を示しつつ、わかりやすい自己点検・評価の評価書を公表することができているか	B	・大学全体の自己点検・評価は、認証評価及び自己点検・評価の報告書により公表している。 ・教職課程の自己点検・評価は、「教職課程運営会議」にて取りまとめ、今年度からその結果を公表する。 ・今後は、全学的位置づけを明確・明文化した「教職課程運営委員会」を組織し、運営・点検評価の中核的組織として学内規程においても明確に位置づけるとともに、継続的に評価書を公表していく予定である。	【資料 28】 自己点検・評価／情報公開・報告／帯広畜産大学 HP 【資料 29】 大学機関別認証評価／帯広畜産大学 HP https://www.obihiro.ac.jp/ce-and-a

基準 6. 教職指導（学生の受入、学生支援）

基準項目と評価の視点	2022 年度 自己判定	自己判定の理由	エビデンス資料
6-1 教職課程を履修する学生の確保に向けた取り組み状況 ・当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像をふまえて、ガイダンス等を実施しているか ・教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定しているか	A	・スムーズな教職課程の履修の開始・継続を図るため、全学の新生オリエンテーション時に、教職課程履修ガイダンスを実施し、教職課程で学ぶにふさわしい学生像をふまえて、本学の教育職員免許状取得の意義・教員養成の目標・履修スケジュール・就職状況などを説明し、履修相談を実施している。また、各専門のユニットに配属される 2 年次 4 月に、あらためて希望者を含めた教職課程履修ガイダンスを実施している。 ・『履修要覧』に教育実習履修要件を明示し、上記 2 つのガイダンスにて説明するとともに、教職専門科目をはじめとするカリキュラムフローチャートの説明と再履修による教職課程の履修継続の困難性についても説明している。	【資料 4】教職課程新生オリエンテーション資料 【資料 30】新 2 年生向け教職課程オリエンテーション（教職履修モデル）資料 【資料 11】帯広畜産大学『令和 4 年度 履修要覧』『教育職員免許状』 【資料 27】授業科目と DP の対応表・CP と DP の対応表・教職のカリキュラムフローチャート／3 つのポリシーと AP／帯広畜産大学 HP
6-2 学生に対する履修指導の実施状況 必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、学生に教職課程履修に当たって学習意欲を喚起するような適切な履修指導が行えているか。「履修カルテ」を適切に活用できているか	A	・教職専門科目の授業にて、毎年、授業アンケートを実施して、教員採用試験受験予定者数等を把握し、教職への意欲を踏まえた指導を行っている。 ・2 年前期の「教育原理」と「教育心理学」をいわゆる一般教養科目として全学に開放することを通して、教職への意欲の芽生えを広げる機会を提供している。 ・「各教科教育法」の授業を実務家教員が担当するとともに、卒業生を教職専門科目のゲストスピーカーに呼ぶ等の取り組みを通して、教育現場の生の声を学生に届けることを通して、学修意欲を喚起する取り組みを行っている。 ・「履修カルテ」に、学修意欲に関わる自己評価項目を設け、毎年、5 件法で記入させている。	【資料 6】帯広畜産大学「履修カルテ」
6-3 学生に対する進路指導の実施状況 学生に教職への入職に関する情報を適切に提供するなど、学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか	A	・本学でキャリア教育支援を統括する学生支援課就職支援係にて、各県及び私学の教員募集要項、推薦要項を管理して学生に周知することに加え、それらの要項を教職課程専任教員に迅速に情報共有する体制を構築している。 ・教職課程専任教員は、授業アンケート等で学生の教職志望を随時把握し、ポータルサイトや授業時やマッチングを考慮して個別に、学生に情報提供を行っている。	【資料 31】就職支援室／帯広畜産大学 HP https://www.obihiro.ac.jp/career-counseling

基準 7. 関係機関との連携

基準項目と評価の視点	2022 年度 自己判定	自己判定の理由	エビデンス資料
7-1 教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況 大学ないし教職課程センター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っているか	A	・北海道教育委員会が策定する教員育成指標を踏まえるとともに、学校支援ボランティアや「草の根教育実習」等への参加により、北海道教育委員会との連携を図っている。 ・上記の取り組みの窓口を教職課程運営会議のメンバーである教務課スタッフが一元的に管理することで、スムーズな情報共有体制を構築している。	【資料 7】北海道における教員育成指標 【資料 32】帯広市学校支援地域本部事業 https://www.city.obihiro.hokkaido.jp/shisei/seisaku/kyoiku/1003415.html 【資料 33】北海道教育委員会「草の根教育実習」 https://www.dokyo.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kks/kusanonekyoikujisshu.html
7-2 「教育実習」を実施する学校との連携・協力の状況 教育実習を実施する学校と適切に連携・協力を図り、実習の適切な実施につなげることができているか、学校体験活動や学習指導員としての活動など、学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できているか	A	・本学では、地域の高校との高大連携協定及び教育実習連携協定を結んでいる。高大連携事業では毎年、実施報告と予定を会議にて確認することで、適切な実習の実施につなげている。 ・学校支援ボランティアにて、教育委員会職員による説明会とボランティア登録を行い、実際に地域の学校で TA や放課後学習会への参加等、学校現場での体験活動を行う機会を提供している。 ・「草の根教育実習」の情報も教務課から学生へ周知し、北海道教育委員会によるマッチングを経て参加している。	【資料 34】高大連携の取り組み／帯広畜産大学 HP https://www.obihiro.ac.jp/collaboration-high-school 【資料 35】「教育実習連携協力校」課程認定申請書 【資料 32】帯広市学校支援地域本部事業
7-3 学外の多様な人事の活用状況 教育課程を充実するために学外の多様な人材を実務経験のある教員またはゲストスピーカー等として活用することができているか	A	・教職課程を充実するために、「各教科教育法」の授業を主に、実務家教員が担当している。 ・教育現場の生の声を学生に届けることを意図して、教員として働いている卒業生を教職専門科目のゲストスピーカーに呼ぶ取り組みを行っている。	【資料 12】帯広畜産大学 Web シラバス